

痰を出しやすくする方法（分割版②）

ホームページ上にも掲載してありますが、

ご利用しやすいようにPDFにもまとめてみました。

★サイトの内容に多少の追加と編集をしております。

※ご利用前に「免責事項と著作権」8ページをご一読頂けたらと思います。

目 次

※分割版②

| | |
|------------------------------|---|
| ネブライザー (吸入器) の使用 | 3 |
| ネブライザーの方法と注意点 | 5 |
| 吸 入 薬 | 7 |
| * 免責事項と著作権 | 8 |

ネブライザー（吸入器）の使用

◎ 目的

- ・ 気道（口腔、鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、気管支枝、肺胞など）に湿気を与える。
- ・ 気道に薬液を与える。

◎ 上記の結果期待される効果

- ・ 痰を柔らかくする
- ・ 気道を滑らかにする。
- ・ 気道の粘膜を保護する。
- ・ 気道の壁に付着している痰を剥がれやすくする。
- ・ 痰が出やすくなる。
- ・ 呼吸を楽にする。
- ・ 術後の肺合併症の予防
- ・ 病気の治療と予防。

※喘息の患者さんによく利用されています。

◎ 原理

液体を細かい粒子にして上気道より吸入させます。

細かい粒子にする方法として、ジョット式と超音波式があります。

コンプレッサーで圧縮した空気で液体を霧状にするものをジェット式。

超音波振動子によって細かい粒子にするものを超音波式。

◎種類

○ジェット式吸入器。

ジェット式の吸入器は、原理上小型にはし難いため、持ち運びには不便。

* 最近では小型のものも出てきています。

音が他の吸引器と比べると大きいですが、
安価で使用できる薬液の種類が多い為、医療機関などでは
多く使用されています。

○超音波式吸入器

小型にも出来る為、携帯用のものが多い。

欠点として粒子が細かすぎる。

○メッシュ式の吸入器

従来の超音波式吸入器の欠点を改善した吸入器

ネブライザーの方法と注意点

◎方 法

ジェット式ネブライザーについてまとめてみました。

メーカーや種類によって違いはありますが、大まかな手順は以下の通りです。

○吸入器に指示された薬液などを注入する。

* 医療機関では、ディスポ（ディスポーザブル、使い捨て）の注射器で正確に量を測ります。

* 薬液ごとに違う注射器を使用します。

○ネブライザーの本体に接続します。

○噴霧の量、風量、時間などを設定します。

* 噴霧の量が多いとむせたり、咳を誘発させたりする為、注意します。実際噴霧させて薬液の流出状態を確認します。

○マスクを装着します。

* マウスピースの場合はくわえてもらいます。

* 口は軽く開けて、口から呼吸をします。

○薬液が無くなるか、噴霧の状態が消えたら終了。

又は時間がきたら終了。

○吸入が終わったら、うがいをします。

◎ 吸入時の注意点

- ・ 吸入する時は、腹式呼吸でゆっくりと深く呼吸をします。
- ・ 吸入後は、口の中に残っている薬液を取り除く為にうがいをします。
 - * 口腔内に薬剤が残っていると、体内に吸収される為。
又、口の中が不快な感じがするためです。
 - * 痰を出やすくする為に使用される薬液は、生理食塩水やビソルボン
アレールなどがあります。
 - * 喘息に使用される薬液には上記の他にもステロイド剤や抗コリン剤
β刺激剤、抗アレルギー剤 などがあります。

※喘息の治療として使用する場合は、上記以外にも注意しなければ
ならないことがあります。

※喘息の治療として吸入する場合

喘息発作などの治療として吸入する場合は、十分な観察が必要です。
特に呼吸状態や顔色の変化には気をつけます。
嘔気、嘔吐の有無、脈拍の観察も必要です。
吸入開始後、呼吸が苦しくなる場合もあるため、
吸入中は必ず傍で見守る必要があります。
特に乳幼児の場合は、吸入中はもちろんですが、
吸入後もしばらく観察する必要があります。

☆観察ポイント

呼吸器症状： 呼吸の回数、深さ、咳の回数や種類、痰の性状 など
循環器症状： 冷汗、口唇色の変化（チアノーゼ）、気分不快
脈拍の状態 など
消化器症状： 嘔気、嘔吐 など
精神状態： 不安感の有無

吸 入 薬

ここでは主に使用されている、痰の排出を助けるお薬をまとめてみました。

アレベール

吸入液として広く使用されています。
他の薬の希釈や溶解剤です。
吸入効果を高める働きがあります。

ビソルボン

気道からの分泌液を増加させます。
痰をうすめて粘りをとります。
気道粘膜の線毛運動をよくして、痰の排出を促します。
古くから使用されている薬です。

生理食塩水

約0.9%の食塩水です。
他の薬の溶解や希釈として利用されます。

※喘息などで使用される吸入薬は、ステロイド剤をはじめ、
抗アレルギー剤、 β 刺激剤、抗コリン剤などがあります。
商品名では、ベネトリン、アロテック、インターールなど



次回の項目

- 水分補給
- その他
スクイーピング、ハフイング、催咳法、
呼気陽圧療法、振動呼気陽圧療法、持続的気道陽圧療法

〈免責事項〉

当電子書籍の内容につきましては、参考文献や作成者の経験などを基に、細心の注意を払い、より正確な情報に努めておりますが、それらの安全性、完全性などは保証しておりません。

又、管理人の経験や知識などを基にまとめた部分もある為、私見も含まれております。あくまでも参考の一つとしてご利用願います。

ここに掲載されている内容において、問題や損失・トラブル等いかなる損害についても、管理人（作成者）には責任はないものとさせていただきます。ご容赦ください。全て自己責任でお願い致します。

〈著作権について〉

当電子書籍の著作権は作成者にあります。

当電子書籍に掲載されている全てのコンテンツの無断転載、複製配布などを禁止しております。宜しくお願い致します。

☆コンテンツの利用をご希望の方は、下記までご連絡下さい。

又、当電子書籍へのご意見、ご感想、ご希望などございましたらお知らせ頂けたらと思います。

※誤字・脱字などで読みにくい部分がありましたら、お手数をおかけて申し訳ありませんが、下記よりご連絡下さい。

[お問い合わせフォーム](#)

〈管理人（作成者）のプロフィール〉

作成者名： toko 子供1人のごく普通の主婦
職歴： 看護師として10年間勤務（病院5年・健康相談5年）
現在： 主婦業、親の介護、サイトの管理運営 など

サイト名： [介護インフォメーション](#)
メルマガ案内： [メルマガ名](#) [介護インフォメーション](#)
[メルマガバックナンバー](#)
管理者名： toko
お問合せ： [お問い合わせフォーム](#)
姉妹サイト： [ナースのホームページ](#) [へるすナビ](#)
